

英文の修正検討用語 13語			
88	延長ブリッジ	937ブリッジの英単語と不一致。Fixed dental prosthesis, fixed partial denture, bridge → fixed dental prosthesisを削除 937ブリッジ fixed partial denture,bridge であるが、 GPT9でbridgeはslang, obsoleteとなっている。というところをどう考えるか。	
183	可撤性ブリッジ	184可撤性補綴装置と英単語が同じになっている。937ブリッジの英単語と統一するとremovable partial dentureになるが、それだと義歯と同じになってしまう。	
622	接着ブリッジ	bridgeはslang, obsoleteとなっている。	
860	半固定性ブリッジ	622と同じ	
861	半固定性補綴装置	dental を追加して semifixed dental prosthesis の方が良いのでは。	
778	陶材焼付冠	GPT-9ではmetal-ceramic restoration が見出し用語。	
128	解剖学的人工歯	GPT-9 anatomic teeth 無歯顎補綴治療学第3版,日本歯科医学会学術用語集第2版 anatomic artificial tooth 有床義歯補綴学 anatomic artificial teeth, anatomic teeth	GPT9 はteeth, 無歯顎補綴治療学第3版, 日本歯科医学会学術用語集第2版 は tooth で統一したと思われる。 有床義歯補綴学は専門用語集の表記に合わせたと思われる。
253	機能的人工歯	GPT-9 semi-anatomical teeth 無歯顎補綴治療学第3版 functional artificial tooth 日本歯科医学会学術用語集第2版 functional artificial tooth	GPT9 はteeth, 無歯顎補綴治療学第3版, 日本歯科医学会学術用語集第2版 は tooth で統一したと思われる。 有床義歯補綴学は専門用語集の表記に合わせたと思われる。
877	非解剖学的人工歯	GPT-9,日本歯科医学会学術用語集第2版 non anatomic teeth 無歯顎補綴治療学第3版 non-anatomic artificial tooth	GPT9 はteeth, 無歯顎補綴治療学第3版, 日本歯科医学会学術用語集第2版 は tooth で統一したと思われる。 有床義歯補綴学は専門用語集の表記に合わせたと思われる。
564	人工歯	GPT-9で対応する見出し用語なし、 無歯顎補綴治療学第3版,日本歯科医学会学術用語集第2版 artificial tooth	GPT9 はteeth, 無歯顎補綴治療学第3版, 日本歯科医学会学術用語集第2版 は tooth で統一したと思われる。 有床義歯補綴学は専門用語集の表記に合わせたと思われる。
1104	レジン歯	GPT-9で対応する見出し用語なし 無歯顎補綴治療学第3版 acrylic resin tooth 日本歯科医学会学術用語集第2版 resin tooth	GPT9 はteeth, 無歯顎補綴治療学第3版, 日本歯科医学会学術用語集第2版 は tooth で統一したと思われる。 有床義歯補綴学は専門用語集の表記に合わせたと思われる。
381	硬質レジン歯	GPT-9で対応する見出し用語なし 無歯顎補綴治療学第3版,日本歯科医学会学術用語集第2版 composite resin tooth	GPT9 はteeth, 無歯顎補綴治療学第3版, 日本歯科医学会学術用語集第2版 は tooth で統一したと思われる。 有床義歯補綴学は専門用語集の表記に合わせたと思われる。
780	陶歯	GPT-9で見出し用語なし 無歯顎補綴治療学第3版, 日本歯科医学会学術用語集第2版 porcelain tooth	GPT9 はteeth, 無歯顎補綴治療学第3版, 日本歯科医学会学術用語集第2版 は tooth で統一したと思われる。 有床義歯補綴学は専門用語集の表記に合わせたと思われる。

用語の説明修正検討用語 14語			
99	オーラルフレイル	2019年日本歯科医師会発行の「通いの場で活かすオーラルフレイル対応マニュアル～高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施に向けて～2020年版」定義とのすり合わせが必要 →老年歯科医学会との意見のすり合わせも必要	
321	口腔機能低下症	同上	
394	咬頭嵌合位	下顎頭の位置とは関係なく、上下顎の咬合面が最大面積で接触し、安定した状態にあるときの咬合位。令和2年度 第6回委員長会で報告済。	
727	中心咬合位	下顎が中心位で咬合したときの対向する歯列の咬合位。これは、咬頭嵌合位と一致する場合もある。前項のごとく、中心位の定義が不明確のため、本項の意味も多様となる。令和2年度 第6回委員長会で報告済。	
1018	補綴装置	1)身体器官の欠損や形態・機能異常に対して、修復・整形・機能回復を目的として適用される各種人工装置の総称。 2)歯質、歯列、顎骨などの欠損や形態異常を修復し、失われた形態・機能・審美性の回復を図る人工装置のほか、口腔に関連する種々の疾患に対する予防や治療目的あるいはその補助として口腔内に装着される装置。これは慣用的なもので、厳密に口腔領域に限定した本義で表示する場合には、歯科補綴装置(dental prosthesis)とすべきである。令和2年度第6回委員長会で報告済。引き続き検討事項。	
806	二面形成	下顎の場合は現状で十分であるが、上顎の場合は舌側の軸面形成でも二面形成を行う。 クラウンブリッジテクニッククラウンブリッジ補綴学などその他にも形成に関わる教科書にも上顎口蓋側の軸面形成において二面形成について言及している。	
640	セントラルベアリングトレーシングデバイス	638セントラルベアリングスクリュー、641セントラルベアリングプレートの見出し用語があるが、本文中では描記板と描記針となっている。	
411	ゴシックアーチ描記法	新たに加わったセントラルベアリングトレーシングデバイスという言葉本文中に用いなくてもよいのか。	
100	オーラルリハビリテーション	説明2)に「固定性補綴装置を適用する・・・」とありますが可撤性補綴装置についても加えるべきでは？	
369	咬合面再形成[義歯の]	「咬合面を再構成することにより形態、機能、審美性の回復をはかる」とあるが、咬合挙上などの概念も含まれるのか？	
940	フルバランストオクルージョン	用語集第3版まではフルバランストオクルージョン 日本歯科医学会学術用語集、無歯顎補綴治療学、歯学生のパーシャルデンチャーなどでも「フルバランストオクルージョン」です。	
付録2	オーバーラップ	使用が望ましくない用語に「水平オーバーラップ」が記載されていますが、見出し語の英語にhorizontal overlapが記載されており、使用が望ましくない用語から削除が必要では？	

付録2	オーバーバイト	使用が望ましくない用語にパーティカルオーバーラップが記載されていますが、見出し語の英語にvertical overlapが記載されており、使用が望ましくない用語から削除が必要では？	
付録2	オクルーザルアプライアンス	同義語のバイトアプライアンスの <u>バイト</u> は不適切ではないか。	

新規掲載候補用語 23 語			
	口腔内装置		
	歯科技工	日本歯科医学会学術用語集第2版見出し用語 GPT-9で対応する見出し用語なし	
	歯科技工士	日本歯科医学会学術用語集第2版見出し用語 GPT-9で対応する見出し用語なし	
	歯科技工学	日本歯科医学会学術用語集第2版見出し用語 GPT-9で対応する見出し用語なし	
	咬頭・鼓形空隙(辺縁隆線)関係	歯学生のパーシャルデンチャー第6版p53(索引にあり)、GPT-9 見出し用語	
	咬頭・小窩関係	歯学生のパーシャルデンチャー第6版p53(索引にあり)、GPT-9 見出し用語	
	トランスミッションユニット	床義歯学p234、歯学生のパーシャルデンチャーには第5版記載あり。110回の国家試験に出題	
	ワックスステップ	歯学生のパーシャルデンチャー第6版p172記載あり(索引にはなし)	
	維持線	歯学生のパーシャルデンチャー第6版p84に記載あり	
	装着		
	試適		
	マージン	GPT-9 見出し用語	
	フレミタス	GPT-9 見出し用語	
	モデルフリー		
	スキャンボディ		
	口腔内スキャナー		
	光学咬合採得		
	光学印象採得		
	ダイナミックナビゲーション		
	ステント、ガイドプレート		
	精度と真度		
	術後即時顎補綴装置	平成30年より保険収載。	腫瘍、顎骨嚢胞等による顎骨切除が予定されている患者に対して、術後早期の構音、咀嚼、嚥下機能の回復を目的に、術前に印象採得を行い、予定される切除範囲を削合した模型上で製作する補綴装置のこと
	希土類磁石		
	直接訓練		
	間接訓練		
	食形態		
	歯科訪問診療		
	栄養サポートチーム		
	鼻咽腔閉鎖機能	鼻咽腔閉鎖機能検査は収載されているが鼻咽腔閉鎖機能および鼻咽腔閉鎖不全はなし	嚥下時、発声時、ブローイング時にみられる、軟口蓋、咽頭側壁、咽頭後壁による鼻腔と口腔間の分離、狭小化、閉鎖(する機能)のこと。

	開鼻声	hypernasality GPT-9	口蓋欠損、軟口蓋麻痺のような場合には鼻咽腔を遮断する機能が失われるので、鼻腔に流れる音声気流が非常に多く鼻に抜け過度の鼻腔共鳴を生ずる。口蓋欠損に対しては、可能ならば手術的閉鎖を行い、不可能ならプロテーゼを使用する。軟口蓋麻痺に対しては、咽頭後壁粘膜弁を軟口蓋と縫合する口蓋咽頭形成術が有効である。また機能的なものは言語治療で治癒する。なお、口蓋欠損と軟口蓋運動障害の共存するものとして口蓋裂がある。この際の語音は単に開鼻声のみならず、口蓋異常を代償するための種々の異常構音が加わっていきわめて特殊であり、口蓋裂音 (cleft palate speech) と呼ばれる。(耳鼻咽喉科学用語解説集P31-32)
	オーラルディアドコネシス	有床義歯補綴学(永末書店、2021年、p.291)とクラウンブリッジ補綴学第6版(医歯薬出版、2021年、p.53)に記載あり。	
	リムーバルリング	国家試験によく出題→第5版では「リムーバルノブ」のみ →第6版に採用もしくは追記(リムーバルノブの欄に)	

削除候補用語2語

422	ゴム床
859	板(鋸)鉤